

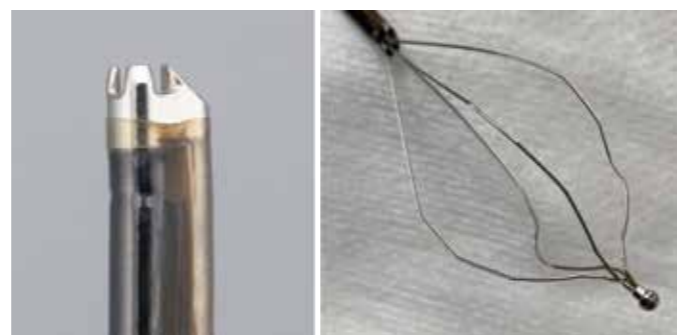
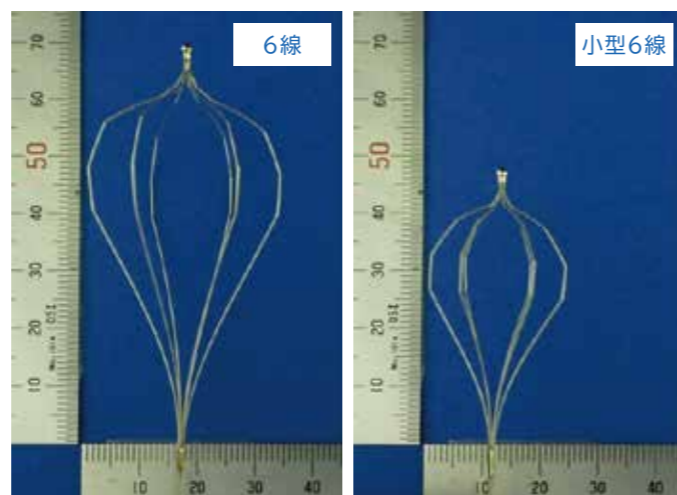
コメント

ERCPでの胆管結石治療において、バスケットVSバルーンカテーテルの単一デバイスでの完全切石率は、以前から議論されているものの決着には至っていない。またERCPは侵襲度の高い処置であり、実臨床においてはより高い確実性が求められる。そのため当院では基本的に、まずはバスケットカテーテルを用いて内視鏡画面で結石の排出を可能な限り確認し、画像を残すことを心掛けている。その後バルーンカテーテルを用いて微小結石やdebrisを排出させた上で造影を行い、造影所見でもdefectの無いことを確認することで、完全切石に努めている。バスケットはバルーンに比して内視鏡画像での結石の視認性に優れているが、その反面、常に嵌頓のリスクを念頭に置き処置を行う必要がある。小結石に対しては8線バスケットを用いることも多いがクラッシュ機能を有しておらず、5~10mm大の結石では胆管径などによってはやはり嵌頓のリスクが存在する。

タイコ小型6線は、形状に改良が加えられ(写真⑦、⑧)、今回のように6mmと大きくは無い結石に対しても把持能力を有している。嵌頓回避のためのクラッシュ機能を有するバスケットでありながら、小結石も把持することができるタイコ小型6線は、日常診療において非常に汎用性が高いデバイスと言える。

またタイコアルファ小型4線は以前の4線と比してバスケットワイヤとシース先端の形状に工夫が加えられ(写真⑨)、今回の症例においても実際に結石破碎能力の向上が見られた。かなり硬い結石に対する破碎を繰り返し行なったが、バスケットの形状変化も以前に比して軽度に加えられていた(写真⑩)。タイコ4線に比して小型化されてはいるが、対象結石径は25mm以下と大きな結石にも対応可能であり、強い結石破碎能力も有しているため、ある程度の大きさを有する結石に対し安心して用いることの出来るデバイスとなっている。

胆管結石治療において用いるデバイスについては、結石径や個数、また胆管径や形状によって、各種製品の特徴を理解し、適切なものを選択する必要がある。今回タイコシリーズに新たに追加されたタイコアルファ小型4線とタイコ小型6線は、どちらも非常に汎用性が高く嵌頓リスク回避のため安心して用いることの出来る製品となっている。



CASE REPORT 07

総胆管結石に対するゼメックス クラッシャーカテーテルM
タイコアルファ小型4線とタイコ小型6線の使用経験

独立行政法人労働者健康安全機構
大阪労災病院 消化器内科
大西 幸作 先生

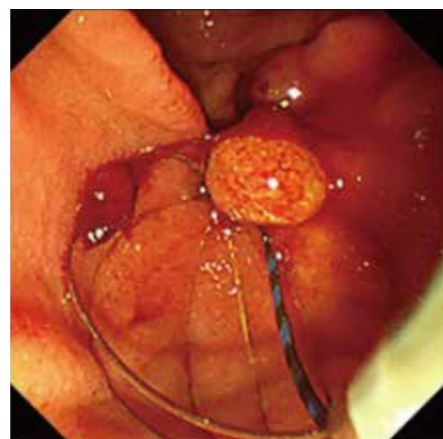
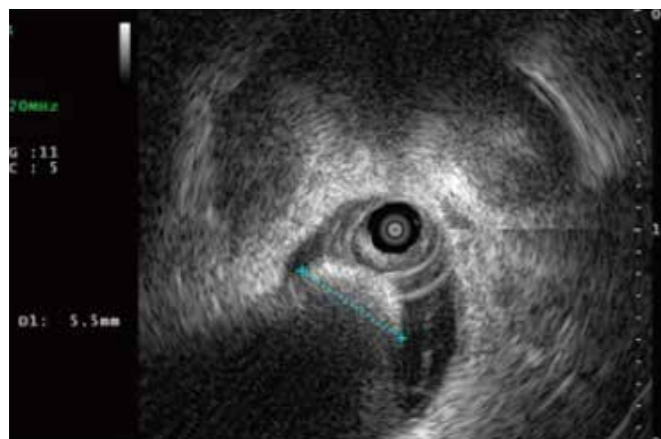
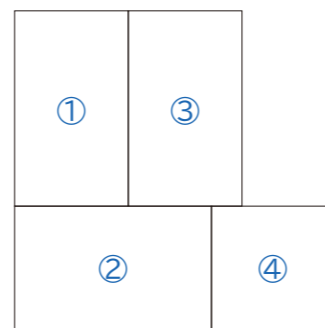
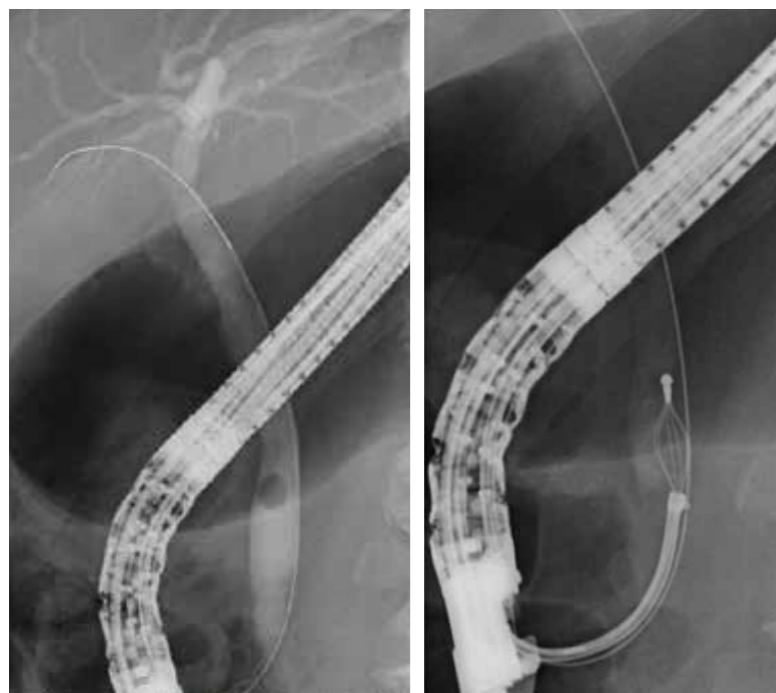


はじめに

総胆管結石に対する治療として、内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)での切石術が広く普及している。切石に用いるデバイスとしてはバスケットカテーテルとバルーンカテーテルに大別され、結石径や個数、はたまた術者の好みによってデバイスが選択される。バスケットカテーテルには3線~8線まで多種多様なものが存在するが、サイズの大きな結石に対しては碎石を行う必要があり、クラッシャーカテーテルが用いられる。クラッシャーカテーテルとして2015年にゼメックス クラッシャーカテーテルM タイコ4線・6線が発売されているが、今回その改良型であるタイコアルファ小型4線とタイコ小型6線が発売され、それぞれ有用であった症例を経験したため報告する。

症例 1

85歳の男性で腹痛を主訴に来院され、総胆管結石性胆管炎の診断にて入院となった。抗菌薬投与による保存的加療の後、一期的に切石を行うこととした。胆管cannulationを行い造影及びIDUSにて6mm大の結石の存在を確認した(写真①、②)。内視鏡的乳頭切開術(EST・中切開)を施行の後、タイコ小型6線にて結石を把持して切石を行った(写真③)。内視鏡画像では黄色のコレステロール結石の排石が確認された(写真④)。本症例では胆管径は8mm程度と拡張が強くはなく、結石径も6mmと大きなものでは無かったが、タイコ小型6線は十分に把持能力を有していた。



症例 2

59歳の男性で約1ヶ月前に総胆管結石性胆管炎・胆嚢炎にて入院となり、胆道ドレナージチューブを留置し、胆嚢摘出術を施行の上、一旦退院となった。その際のERCP所見では、12mm大の結石に対して胆管径が下部では4mm程度と細く、内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD)を試みたが困難であり、タイコ4線で碎石を試みるも結石が硬く困難であった。そのため今回は電気水圧衝撃波胆管結石破碎装置(EHL)を準備して切石を行う方針としていた。造影にて結石を確認し、まずは今回新たに発売となったタイコアルファ小型4線にて碎石を試みたところ、徐々に結石の破碎に成功し、EHLを行う事なく切石することに成功した(写真⑤、⑥)。

